

442
六
16

雪乃出羽路

六

秋田縣立
横手分館

平鹿

登	8512
函	442
番	111

6111
442
10

雲北出羽路

六卷

平鹿郡 六卷

六卷



平鹿郡 六卷

あけのやま

阿氣村寄御立村

むけの

けの

臼井

平柳

あけのやま

小出

水新やち

あけのやま

宮田

大塚

大野

加田

北沢

山手

山手

山手

山手

山手

山手

山手

山手

山手

山手

山手

山手

山手

山手

山手

山手

山手

山手

山手

山手

山手

山手

里トテ其後我家公に鑑ヨ當社へ奉納今ニ寶物ト八幡宮社殿
ニ在リ以後文字ヲ改メ云々同書ニ枝郷本戸口館屋敷六
町藤卷櫻森高野高口潺豊脇石持折橋三寺大慈寺
谷地船場東阿元鶴卷田中島三王見ヨ此河原と母郷トテ
子郷五箇村ありそと平柳宮田小出薄井大塚ニ此寄郷
の村由來ヨ所氣の枝郷のゆゑヨ此の實ニ云々

安家アムケ本ト阿礼山正八幡宮トてなりその所ニ從ニ位坂上大宿禰
田村將軍東夷征伐のとき此處ニ宿願して祈ひの隨ニ刻削
て其戦功ト大悲の法力ヨとて甕を脱て塚に祀其上へ
一字の堂ニ造宮千手菩薩の神形と安置て報祭云々

イコケヨエのあは山と勝軍山号其堂と甕其堂と云々
安家山五穀寺觀音中興縁起ト云々
出羽國子鹿郡阿氣山安家山五穀寺觀世音菩薩奉申者聖武天
皇御宇神龜三年越之大德泰澄和尚奉勅命草創也天皇
依詔不豫詔五畿七道放生供養於諸佛東海東山北陸泰
澄兼之執行云々後冷泉院御宇永承年中奥州住人安部
賴時嫡子井殿盲目尉川二郎貞任三男鳥海三郎宗任四男
境講師官照五男黑澤虎五郎正任六男白鳥八郎行任金友
逆因茲鎮守府將軍源賴義公相伴於嫡子八幡太郎義
家次男賀茂治郎義綱先九年之合戦源氏僅成七騎
引揚軍卒而此勝軍山甲臺故號舉里云々御父子諸

觀世音。賴於怖畏軍陣中。念彼觀音力。于時山北之住人
清原武則卒。一萬之兵而參加味方。負任之。伯父破於良照之小
松柵。負任宗任卒於八十。兵救良照。而雖防戰。賴義將軍
蒙觀音擁護。於敵者并河討。山徒過手。負任兄弟逃。籠
衣川館。賴義御父子破之。退鳥海。官軍追北。終。康平五
年。壬寅十二月廿九日。於尉川城討。取負任。子息千代。童子。擒於
宗任。故賴義公被任。正四位下。伊豫守。八幡太郎。我家公從五位
下。出羽守。賀茂二郎。義綱公左衛門尉。依是觀音堂。一字再興
盡善盡美。亦堀河院。寬治二年。武衛家衡企謀叛。陸奥
守義家蒙勅。令相見。於新羅三郎。義光攻出羽。國仙北金澤
城。後三年之戰。亦賴觀音八幡神力。奧刈住人沼倉七郎

郎徒堀小源太沼館庄司二郎。為嚮導。同五年十月。曾討取
家衡。生取武衡。其時被引於鞍馬。今殘片足之證。從是。關
東成源家之家人。其後被置藤原清衡西國。子息基
衡。亦衡連綿而領之。泰衡國衡亡滅之後。分賜忠功之勇
士等之時。當國當所賜小野寺禪師太郎道綱。任先例
每歲八月十五日。勤祭祀。執行於神樂流。鑄馬令寄附田
園二十畝。俗此所号坊田堰。從康平五壬寅年。至貞享元
年。甲子年。記六百十九年。荒敗殘礎石。計佛躰破壞而晦
跡。時乎余乎耐悲歎矣。爰。熊谷氏雅直幸。領彼地。不忍
見於凌廢。其頃武陽目黑安養院二世空誓上人者。羽
州俗名平氏葛西之後裔。岩井某為。予於旧主之沒後。出

家而木食草衣荒行不耻於文學故書畫併工忽熟
練而道心堅固以鳴世予談上件之不幸願於俳優之
再興上人嘆而曰善哉公之逸志續絕世興廢道是仁人之業
功也不如合力以白檀四寸八步菩薩像不日成矣其日則
貞享元年七月六日正觀音之緣日也于時國守從四位下侍
從兼右京大夫依竹冠者源義處公御母堂光聚院殿正覺
宗因大猷達高聞感嘆不少我聞心貴於莊嚴雖然
非所暨微力不可有不奉加課武州江戸中橋之佛工法
橋善慶到後光臺座厨子瓔珞未迎二柱是誠信心
所以不隱天地也書曰積善之家必有余慶具一切功德
慈眼視衆生福聚海無量是故現世武運長久子孫

繁榮公私和合保於椿葉八十之壽齡預南方神陀洛
世界之引導欲到九品之淨刹無疑也

于時貞享二年九月吉日願主熊谷氏徳左衛門尉雅直

ありしときより 田村將軍の時よりハ觀世音と真

鉢より義家將軍迄足鑑と奉納給ひしハ幡宮廟

ハその鑑より俗鑑ハ幡宮よりまじりてその證より神

器より安家山正八幡宮よりまじりて龍山五穀寺より

千手觀世音と安置なりしハ幡宮神殿白幡神社より

觀音菩薩も合ふなりしハ神戶本掛の鐸は應安二年

八月より高町より文政八年より四百五十七年のむかし

偶々四本の大板ありしハ康平の世よりありしなり

いり大角サイア角樹アシの室むろ虚うつ亦何ナニも人ひと五六イッパツタリ人にタリ入いるりスススス本ほん角かく樹じゅ
 かうちて享和の年こゝ外ほかむ風ふうあきふあつて倒たふふてうべせへ住する木き
 外ほかむくく片かた錢せんといふいふのよきなり小品せうひんて板いた廣ひろく古老こらう
 の語ことも五六いといふいふ錢せん外ほかむくく事ことうね

同祖々福正院古識、真言宗遷化のせし其谷を分ちて二ヶ所
 福正院ハ新寺康道の祈願所と武勇くく智も勝き多く大
 森戦めきき女も音^{ワハ}をいふ紫礫^{シハツゲテ}と小栗^{シノ}をいふと二尺
 あまう小切^{サキ}突で割る縁で一尺計分てその多く小石と巻^キゆくと
 まん紫梅^{シハツゲ}とまれ小石を扱^{ハサミ}雲いん^{クモ}のこきくうに扱^{サリ}れハ空ふ
 揚りて飛りこきと城^{ロニハ}中^ハの小童^{コナハ}女こきくうとてうこま^ハん馬

大常院寶正院実子之寶永四年丁亥十月十三日化
 三世
 長刀を持て續て必るを城の大將康道次不福正院推参りて奴原の大勢
 か掛金先に進じりてあつて七八人おき倒せし生死あつたの最上勢は
 此手並を覺えし故に叶はざりと思ひけし外曲輪に退くをてし
 此事大森の城賣の処に委曲に福正院の塚と大森の城山陰より
 して二世寶正院福正院実子有覺よりして福正院より
 妻弟孝少やありし寛文三年癸卯八月十七日化
 三世

世福正院大常院実子之享保七年壬寅十月十七日化
五世放光院福正院実子之寛保二年壬戌六月三日化
六世福正院放光院実子之寶曆二年辛巳十月十七日化
七世栄学坊福正院実子之安永二年癸巳七月三日化
八世寶正院栄学坊実子之文化五年戊辰八月十日化
九世寶正院栄学坊宥快矢島玄光寺出文化二年甲戌十月十日化
十世現住寶正院宥善得意所當処阿氣村
平柳村 宮田邑 上櫻森邑 八柏村 根田谷地邑
根田川邑 門野目村 新田川邑 田邑
母村十二箇村子郷合四拾四ヶ村之寶正院常山坊守護社
乗揚神明宮 祭日三月十六日 六丁神明宮祭日三月六日也

同六丁ノ藥師佛祭日三月八日 藤巻ノ水福山正觀世音
祭日三月十八日 山王村ノ神明宮祭日五月十六日

専才庵

大慈山専才庵ハ古福正院法印老ノ閑居ノ佛刹ニ
シテ歴代の僧名委曲ナリ寶正院の末庵ニ
右安氣山正八幡宮川龍山五穀寺千手觀世音兩社別當
寶正院十世現住常山坊僧名宥善代ニ

修驗善明院

福龍山八佛寺善明院ノ本尊不動明王ハ運慶作ナリ
勢至大日不動彌陀千手虚空藏文殊普賢この

八卦八佛を安置齋にハハ佛寺の号ハおろしき観音を建
立し六月十五日穀成就天下泰平國家安全武運長久萬民豐饒
を祈禱す

善明院歷代

吾明院上祖ハ某國^{イタリヤ}産^ニトイハ事^ニセサコトナクハ^ニイハル^ニニ
代^ニト社家^ニトイハ^ニ成^ルイハ^ル元祖^ニヲ將野伊豫守重高^ニ
云^フハ二代^ニハ將野伊豫守某^ニ之^ニ近^キサ^キ上祖^ニヲ將衣坊古代^ニの石ノ帶
トテ家^ニト傳^フトイハ^ル系譜^ニ袋^ニトイハ^ル廻^ル禄^ニトイハ^ル今^ニハ石ノ帶^ニトイハ^ル殘^ル
リテ黃銅^ニの一枚^ニの^ニの^ニ先^ニ祖^ニの記念^ニトイハ^ルトイハ^ル將野重^ニ
高^ニの代^ニトイハ^ル其^ニの累^ニ定^ニトイハ^ル事^ニトイハ^ルサ^キリケル^ニハ修驗^ニ者^ニ
ト家^ニトイハ^ル者^ニ光法印^ニ延徳^ニ二^ニ庚戌^ニ年^ニ出生^ニト中興^ニハ家祖^ニトイハ^ル事^ニトイハ^ル

同祖寶樂院者光永祿五年八月遷化行年七十歲二世
 常樂院者毫天正十四年丙戌二月化三世吉祥院者仙慶長
 十六年辛亥九月化四世吉祥院者情正保四年丁亥十一月化
 五世源正院者山寛文十二年壬子四月化此省山人峯修行
 の時釋迦^{ミツケ}嶽^{ミツケ}の^{ミツケ}を^{ミツケ}俗行者擬^{モミ}ふとら風^{ニシ}尾松^{モミ}ふとの
 嫩葉^{フタハ}を振こいて大校尾螺^{オホノボウ}を^{オホノボウ}小其嶽^{コナミツケ}の上^{ウエ}に内てその楪^{モチ}
 をくちりて熊野掛ぬけの行ひ方をこころはりてを首ふりて
 てはふりて来て幸れぬふりて今牛三足を隠しあひむ
 たる生ひしら周回八九尺まういも高くあき夏紅の花咲秋ハ松蓋^{ナデリ}
 の如ふ子なり本^{ホン}のやふくわきて嫩生^{ニコヒ}も多うれば人々こそまてと
 ころ接^トむくくくくくみかふ枯れて生ひきつあれどいつまで

此母美^ミく^ミと四世の吉祥院省情法印^{シヨウジツ}と^ミいり 安常樂院省
皇貞享四年丁卯正月化七世和光院省真正徳元年辛卯七
月化八世和光院省胎享保五年庚子二月化九世吉祥院省
國修行^{クニシヨウ}其命終^{ミノシヲ}處^シる^ルに^ニ近^{チカ}化の年月^{シヨウゲツ}の^ノ事^{コト}也^{ナリ} 十世善明院
省寒寛延二年己丑月化十一世吉祥院省東寶曆五年乙
亥二月化十二世善明院省盛寛政四年壬子九月化 十三世
當住僧善明院有和代^ニ 同寺家藏

千年觀世音古画^{チヤンニヤク}長^{チヤウ}三寸繪^エ佛師^{ハツ}と^シ知^ルる^ル唐^{タウ}緒^{キョ}地^ヂの^ノあり^{アリ}と^シい^フる^ル
多^タく^ク鮮^{セン}妙^{ミョウ}と^シい^フる^ルに^ニ似^ニたり^リす^スづ^ヅけ^ケる^ル一^{ヒト}卷^{クワン}の^ノ面^{オモテ}部^ブ佛^{ハツ}形^{キョウ}と^シい^フる^ル
ふ^フと^ト摩^マ利^リ支^シ天^{テン}の^ノ画^エ像^{ゾウ}圓^{エン}形^{キョウ}の^ノ内^{ウチ}來^{ライ}猪^{シロ}と^シい^フる^ル上^{ウヘ}ニ^ニ寸^{スン}分^{ブン}多^タけ^ケる^ル猪^{シロ}の^ノ
た^タけ^ケる^ルか^カつ^ツた^タけ^ケる^ル怒^{イカゲ}る^ル形^{キョウ}像^{ゾウ}と^シい^フる^ル人^{ヒト}の^ノ筆^{ハツ}の^ノ妙^{ミョウ}澤^{サハ}画^エる^ル不^フ動^{ブドウ}と^シい^フる^ル

中^{ナカ}似^ニる^ル理^リ源^{ゲン}大^{ダイ}師^シ画^エ像^{ゾウ}繪^エ佛^{ハツ}不^フ知^チ 此一軸^{ヒトサツ}裡^ニ小^コ
斯^ス理^リ源^{ゲン}大^{ダイ}師^シ真^{マコト}影^{カゲ}依^ヨ信^{シン}至^シ之^ノ而^{シテ}整^{シツ}點^{テン}眼^{ガン}供^{キョウ}養^{ヤウ}之^ノ容^{ヨウ}儀^ギ
畢^{ハツ} 寶永^{ホウエイ}丁^{テイ}亥^{ガイ}載^{サイ}臘^{ラク}月^{ゲツ}十六^{ジュウロク}日^{ニチ}

地藏院之僧正金剛佛子秀仙

其^{ソノ}外^{ガイ}番^{バン}樂^{ラク}田^{テン}合^カ吉^{キツ}舞^{マシ}の^ノ假^カ面^{メン}十三^{ジュウサン}面^{メン}と^シい^フる^ル古^コ物^{モノ}

鑑^{カン}照^{ショウ}院^{イン}公^{キョウ}御^ミ寄^キ付^{ツキ}の^ノ品^{ヒン}二^ニ貝^{バイ} 行^{コウ}神^{シン}の^ノ秘^ヒ物^{モノ}燒^{ヤク}残^{ザン}石^{シヨク}帶^{タイ}
大^{ダイ}峯^{ホウ}今^{イマ}細^{ホソ}五^ゴ鬼^キ護^ゴ身^{シン}神^{シン}法^{ホフ}九^ク字^ジ傳^{デン}授^{ジュ}證^{テイ}書^{ショ}一^{ヒト}枚^{マイ}
と^シい^フる^ル人^{ヒト}の^ノ様^{サマ}枝^エの^ノり^リと^シい^フる^ル画^エ讃^{サン}小^コ

人^{ヒト}乃^{ナリ}氣^キや^ヤむ^ムふ^フの^ノり^リと^シい^フる^ル様^{サマ}川^{カハ}

○番樂田舎儼尉面

古作甲乙六寸三分丙丁

四寸八分

○御紋附古器大小二

本已此豆三寸七分

度辛 基至高

一寸二分斗

了、松竹鶴亀を

朱添を画し

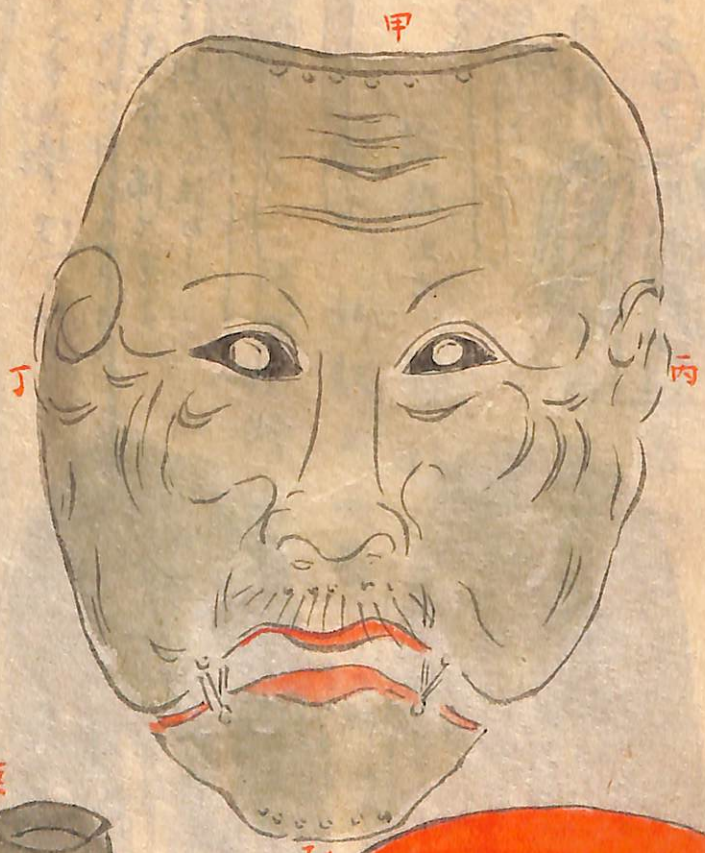
此古器

鑑照院君市寄附

神器へそのむしり

家々傳へて

外
○假面十二面ありむしりの
神樂面



[Faint, mostly illegible handwritten text in Japanese, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

從行者ノ遺
法護身神法
善明院者知
傳之

護身法

神法九字

右依願此度令傳授者也

文化元
年甲子

子七月十七日

大峯山

五鬼助

羽刈秋田

善明院

四回

重福寺

寶藏山重福寺曹洞派萬固山天德寺末院前永平寺
第十二世關童策和尚由疑無之當寺鼻祖之寬文五年乙
巳五月朔日遷化開基須藤權重郎之法名見光道性居
士寬文十一年辛亥六月廿日故當寺テラガ高四石祠堂齋祀科
亦先祖西親菩提為田地寄附度七忠太郎といひ
二世豹山祖玄和尚晋山移傳遷化年月不知三世異林順苗
和尚正德二年壬辰三月化四世觀刈良音和尚元禄六年癸酉
十二月九日化五世孝屋宅順和尚享保六年辛丑九月十日化
六世屋山卓峯和尚寶曆元年辛未十二月廿五日化七世古
溪知絶和尚寶曆十三年癸未二月九日化八世梅岩采林和尚

醫師下田氏家傳

先君子姓藤諱高庸後更信要号仁菴享保兩甲之
年生於父府梅津君之邸其先常川水戶之士也六世祖
信貞萬治己亥之年始到於本邦仕梅津何某君其曾
孫信庸則先考之父也有故辭仕隱居大森村時
先考二十四歲始業醫後遷嶋田村終卜居阿氣村業
益行惠治愈驗矣寬政辛亥正月廿八日終於阿氣村寓舍
享年七十六葬龍淵山大慈寺先君子生質剛毅而好武
技最善於弓與鎗嘗有患少年爭鬪而至文白及共被
創見者如堵牆無能救之者先君子空手救之恰如捕嬰
兒人皆稱歎之又善書達算術隣里從子者頗多矣晚

遂國字六窮唯一之傳自謂吾入於神道知武道之活地性
温厚而尚信義常居喜怒不見色故鄉人善者敬愛之
其不善者嚴憚之娶渡會氏生二男二女其長男諱信成
字君美初學醫術於京師仕
朝為大政官使部
員外郎則不肖孤名信年字文仲絕先緒業醫長
女適修驗道人善明院次嫁赤川喜右衛門子悲久而失
其傳故書其便概以備後世子孫之遺忘云
文化十二年甲戌秋八月既望
下田信年謹記

下田信成京師在りて大江資衡玄圃と師と大江資衡男維翰
著る藍田遺稿の序あり信成をく出羽子庶阿氣く取り来て贈
り詩あり藍田遺稿く和田君美見寄懷韻云々云々

下田氏家藏品類

大政官使部員外郎下田藤原信成雅樂送家弟文仲

序寛政六年甲寅一枚
大内裡の時時と使部官人
百廿人今ハ三十人の

春宮曲二延院落花見雨痕傍簾歸燕已黄昏官娃

相咲并新月更字娥眉欲報恩
青雲

右廣幡前内大臣公前書書作
一枚

防城前權大納言菅原綱忠卿書書
一枚

清人得字九が山水画二枚得字九日本が渡り来てサ方野

山々住居いふ願ひとてハあまのここのおわらげがくの
形ひとてゆれとてハあま清國の敗る妻子貝とてやうび渡り
形とてやうふいふとて病おとてやうとて形おれ古蛇の蛇やあひ

けむし 和漢書画一巻 小字九 名海也堂号又華野匠等ノ号アリ
水画の山水又行書ノ書ヲ能クス
明月隱高樹 廣東省林光裕が書こハ仙臺の海々漂流

す 小字のわさき 一枚 下田氏堂号亭号額二枚

考繁堂 日本應出 田君美之需 漢灘張安宅

幽蘭亭 同上

樸庵 西湖王 蘭谷書一枚

一休和尚九ノ詩

國俊ノ短刀 真物 名刀ト云ふ

下田氏庭小小枚ありてまふ一垣なりて

福斎の小祠あり棟北小三井山福斎ありこゝ下田氏の上祖

水戸よりむしりてまふ一垣なりて

○石佛像

阿氣邑

下田文仲家藏

此石佛平鹿部内塚堀村清水町より延の
寒泉 廣十間の庭より出た

甲乙間高々四寸五分
丙丁内互あり

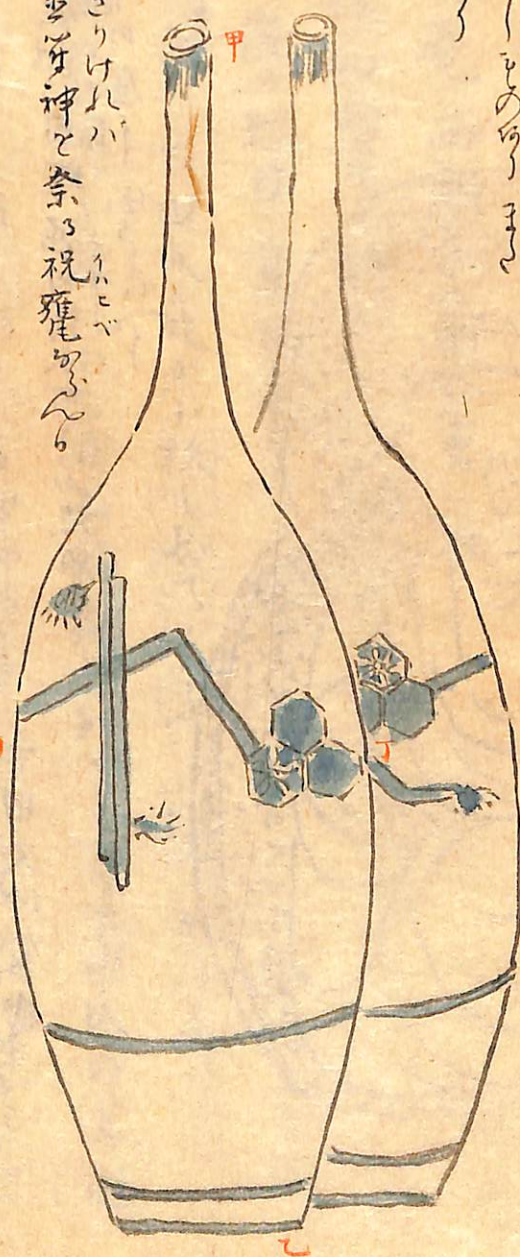


○ 其二

古南京祝陶一雙 甲乙此高九寸三四分 丙丁此周回壹尺三寸五分

下田氏家藏

上祖より傳ふ此二壺ハ木村長門守
家藏のものなり ありて家々存するもの
をいふまじくありしものなり
その磁器の画 某の形もまたあり
此形ハ龜甲形なり 打枝のけらものなり
松の家のさすや 一のありき
五辨のむくあり
其花
うぐい
木犀
むくせハ
里のふけ 極
施 梅
りよりいり
五本 備のきりけりハ
此壺と 鎮定 雲々 神と 奈る 祝 獲 かん



○ 主上晴、御助、圖

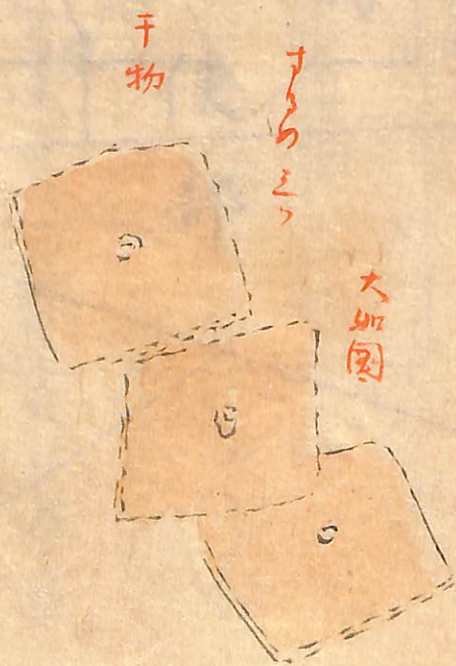
○ 下田氏家藏

寛政六年
甲寅端午於朝餉 内膳司 調進

晴御膳御箸

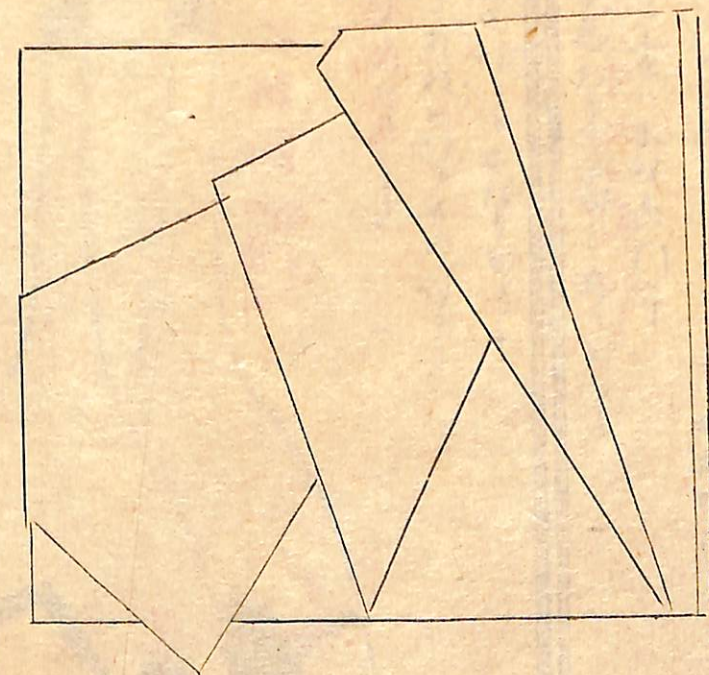
折カケ

長八寸太サ圍ノ如シ

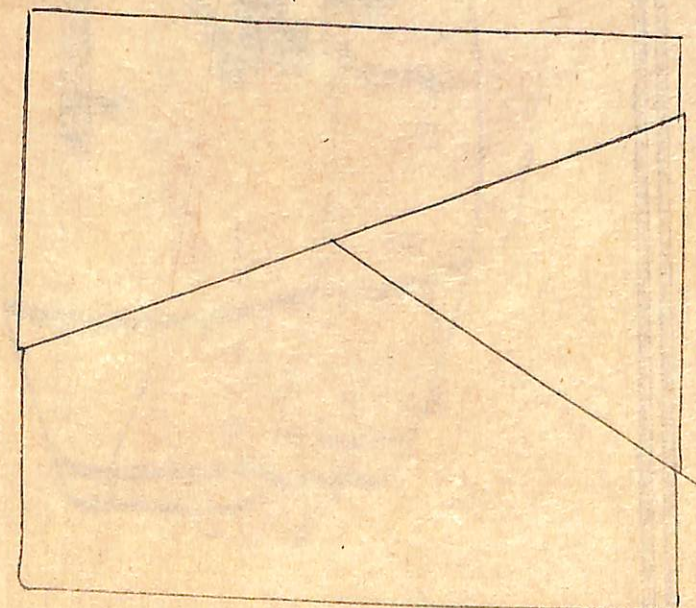


御玄猪
御團子
包紙

裡



表



其一神任寫紙二大高三枚重表外上包紙アリ

下村文仲家藏

藤原信成

右件人恒任使部

仍故下之状如件

年号月日

大外記中原朝臣判

使部願書之写

外記方使部壹人闕望を承下田雅樂藤原信成申者
當年三十三歳に罷成を此者 沛後儀并補奉願上候
尤遂吟味を處無相違可然人休し申す旨偏、以取立
右補闕政考作付を承り、冥加至極難有可奉畏
存了則親類書別紙注進仕候

右之趣亘西沙汰奉願候以上

其一 申上候 爲一 大高に於て 申上候

下村文相者

阿氣邑再考並枝郷由来

此阿氣の事 前よりいひしが本曲ふまゝ此處も云ひし阿氣ふ
事を強て云へ上ヶ奥ヶ場ヶやの字と俗に云ふあけといひ
あけといふ亘流の及し貝のさへまゝ阿氣にお岐の同し秋の飽の
義より百穀已ふ成就て萬民飽き是れその時あらばといふ
此阿氣 古名要の所の郷も新郷ありて成就て秋の稲田の八束ふ
登るゝ事を祝言して愛さるゝをこそ其世ふ人の甘つるゝの
このころの土毛ハ寛文五年の秋の田帳に言成りいひ曰九年
の己酉秋の貢ふり市本田古郷より六つ成立ふりといふ郷中ハ油川
といふ郷一日ふ三夜汁油の流るゝといふ名あつて石胆油などの
類やハ幡宮の市手洗川といふ油川ハそのやういふ名は津輕の

父ハ
父ハ
父ハ

外ヶ濱も其谷すえゝ阿氣本郷せりて西ヶ路ゝふも須藤
自謙又如璞とふ醫^{リスレ}業ありてハ阿氣の^{リサワケ}端芽の家を流
須藤指直郎とて今もあり西ヶ路けりの人あり其母八十
ハその孝子太郎助五十五歳このを助ふ二人は杖持を賜
といふ阿氣の本郷小萱をてかや屋祿草と^{ツガ}業ありて
長吉とふ男ありその子知助とてこゝ十九人父よりありて
家なる事まゝに知助の母二人は十二三の頃よりその
けりありて業ありてまゝ母^メ眼病してけりこゝありてハ
そのけりありて業ありてまゝ父よりありて人といふ
此阿氣の油川の大橋より東て八幡ヶ路と宮小路といふ
宮小路ニ丁東に江原嶋と大石二ありてこゝにいふ

江原某殿といふ人の館の^{ナリ}源とありて南西をあら川
東北に堀の源ありて今ハ田あり苗代時ぬ東西ありて
五十間計ありて中より

阿氣とありていりて水田ありてあぐりあり
良田^{タノオモ}之十町八十町秋とハ東に登るハ字^{ナト}延の小山田て小延の
谷をあけてみりてやまどといふ此の^{ナト}講ハ阿氣田ふ
田村水ありてありて田村といふ水ありて雲水
多し阿氣と水ありて井と堀ありて雲ありていふ
さういふ大慈寺谷地の寒泉ハありてありてあり

金樓

郡邑記ニ云リ家貞十九軒二日の館在ル前ニ屋敷ト村石ト云
えを此館ハいつゝ人の居館なりといきく人なり此は奥山山
といふ高家ありそは本林の城主小野寺孫五郎康通の家士といふ
其その家士をいふ居館ありといふなりふ一奥山氏の家の上祖の持
鎗といふ残きなり此奥山のか流といふ戸あり享保日記ハ家貞十
九軒今ハ並て二戸あり此は小傳師小重郎といふ田佃あり寶曆十一
二年のころ少や小吉といふ十八の長男小重田といふ世に代拝を
田面馬引せて耕の業せさせけりけりといふ小重郎あり小
らくき奴といふ田その家より度れて土氏のいふえぬふこそねえ
者なり今よりいづこへいづこへいきまねるなりけりいづて勤

事とありて涙ふもなきなりとてはせれば久保田よりあり
古地頭殿國本氏小房と寄せる家の奴僕とありて國本氏小房といふ大江
戸小房とて住ぬ父と家と存て与吉オトギ弟小家オトケとて其父ハむくやを
めと好むとやと家とむくふあり其子傳邦テニ与吉ハあつてまれ
かづらふむの事能く父ハ徳づき風の吹ぬくやふくちまら出せて
大江戸ハ所ニ目ノ橋下鉄包丁に家居ていり栄富サカエやみく人
ありて今ハ目見ぬの家主五十二軒の家持とありてかゝる
國本氏の家オホムモカサの苗字を賜りて國本與吉といふむう天壽
院君の古疵瘡ありてくちくちの瘡瘡酒湯のくちくちびまてく見
せられ後後くして金二万と給りて是をいふき尊てその黄
金オウゴンむくち出羽の平赤の羽織の父母とて贈りていふ富貴人

とありていふやありてけきと國の父母ふまき海山ありてか
あけくちとてけくけく父ハ八十ヤシより母ハ九十
一あり文政四年辛巳正月七日父ハ九十より重福寺か葬りて法名
智安妙信女といふ此父母七十七のとき五月の早苗くくくありて
秋ハいふくちとてけくせき年コネの末ハ十八の末いひてくちくあり
くくくその末の家と贈りていふくちくありて國本與吉此年
八十歳ありて此夏國守佐入部オメテタタの法供ありて出羽のいふ
故郷ふありて父母の佛齋ハツラニくけくくくくく

木戸に曰

此村佐膳川の岸かてせり川ハくちくありけり郡是記ハ
重保氏家負十五軒今四戸あり圖書ハ大森の城主小郎幸孫五郎

居城の時、本戸に、故村名と見えし

福嶋上

福嶋 福嶋 清濁を讀て本曾路を始め、わらけく出羽と、わらけく

多う、右に架、本いと多くて、花咲、こゝハ雪であふく、こゝちす

ハ、鶴巻田を隣りし、せう家負

鶴巻田上

享保日記、古家負八軒、今四戸あり、此邑ハ梨、木多く、秋ハ雪、秋

多く、産其餅、こゝふく、こゝち、此村白石の碑あり、言拾言部大衆妙

曲の堆、や、磨減して、いふ

山王上

郡邑記、三王と記り、三王社存、を以て村名と見えし

家負五軒 日吉宮 祭日六月十六日 別當室一福寺

神明宮 祭日五月十六日 別當寶正院

家敷今

中嶋上

郡邑記、大川、内川、境中故村と見え、此村本、舟場村と

神明宮、戸村喜太郎殿、神供寄、り、別當寶正院

長太郎明神、て、稲荷の社あり、神明宮も、長太郎明神も

本、舟場村、小齋、あり、し、神、也

船場 家敷

享保日記、小家一軒、物成舟、着、並渡舟、有、故村名、唱ふ

見え、今、家敷、こゝ、中嶋、小、人、り、住、多、也

乗場

享保日記ニ乗阿氣^{ノリ}河^{カガ}家貞^{ノリ}正軒^{マサノリ}今十七戸あるニ
 神明宮社地小古来の板群^{イタダマ}生^ナ祭日三月十六日寶正院守
 護社^{サキ}之^ノ此^ノや也^{ナリ}とあるもの^{モノ}は四尺計の両頭蛇^{ササ}ありとせ
 小見^{コミ}しときハ三尺^{サンシツ}かほどさう^{サウ}蛇^{ヘビ}ありとあるもの^{モノ}は二尺^{ニシツ}かほど
 赤沼^{アカヌマ}より大沼^{オホヌマ}あり此沼^{コノヌマ}は赤沼^{アカヌマ}より生^ナい草^{クサ}であつて五月
 雨^{アメ}のあつたときやまゝと流^ナれつゝあつた沼^{ヌマ}の水^{ミヅ}が濁^ナりてふこれ
 茶^{チャ}ふくき沼^{ヌマ}と人^{ヒト}とまゐるうぬ^{ウヌ}と流^ナれつゝいり^{イリ}とあるもの^{モノ}

不焚野

郡是記小高野^{コタノ}より家二軒新地形名^ナを^ヲ田村^{タムラ}境^{サカイ}かして
 田村^{タムラ}ハ根子^{ネコ}林^{ハヤシ}小^コこゝろハ^ハさけもの^{モノ}の^ノあつた^ツ不焚^{フタン}の^ノ地^チ

名^ナとありぬ^ヌとあり一^{ヒト}里^リ堆^{ツミ}より大^{オホ}梨^リの本^ノ一^{ヒト}かあり^リは^ハ後^{ノチ}橋^{ハシ}川^{カハ}岸^キ崩^{クサミ}
 あり其^{ソノ}本^ノも^モふれ^レふ^フと^トあり^リ田村^{タムラ}界^{サカイ}小^コ古^コ本^ノの^ノ板^{イタ}ありて遠^{トホ}目^メ
 あり^リに^ニよ^ヨき^キ本^ノあり^リは^ハ是^{コノ}も^ノ枯^カれ^レと^トあり^リさん^{サン}こ^コよ^ヨ古^コ板^{イタ}今^{イマ}も
 存^{ゾン}に^ニ

大慈寺谷地

む^ムろ^ロ大^{オホ}森^{ノリ}の大^{オホ}慈^ニ寺^ジ此^{コノ}地^チ小^コ在^{アリ}り^リも^モそ^ソより^リ村^{ムラ}名^ナを^ヲ寒^{サムイ}
 泉^{イハヒ}より雪^{ユキ}水^{ミヅ}の^ノ文^{フミ}五^イ郎^{ロウ}より家^{イヘ}の^ノ境^{サカイ}田^タ存^{ゾン}小^コ柳^{ヤナギ}和^{ニギハヤヒ}重^ヘなり^リ家^{イヘ}の^ノ
 田^タ神^{カミ}ふ^フ太^{オホ}刀^{タチ}藏^{ザウ}あり石^{イシ}神^{カミ}を^ヲ祭^{マツル}む^ムろ^ロ此^{コノ}石^{イシ}も^モふ^フと^トあり^リ夜^ヨり^リせ^セあ^ア
 り^リ乗^{ノリ}揚^{ヨウ}村^{ムラ}の^ノ仁^{ニギハヤヒ}兵^{ヘイ}衛^{エイ}より男^ヲ夜^ヨ塗^ヌ赤^{アカ}沼^{ヌマ}の^ノ邊^ヘと^ト通^トり^リと^トあ^アり^リ
 の^ノ物^{モノ}ま^マと^ト一^{ヒト}う^ウち^チ腰^{コシ}刀^{タチ}を^ヲま^マと^トき^キり^リと^トふ^フと^トあり^リて^テ他^タ物^{モノ}ハ^ハ消^{シユ}え^エ
 と^トその^{ソノ}ち^チは^ハ此^{コノ}石^{イシ}の^ノ化^カて^テ成^ナれ^レと^トふ^フと^トあり^リは^ハ太^{オホ}刀^{タチ}藏^{ザウ}を^ヲな^ナけ^ケり^リ

折橋

折橋津輕の箭立峠秋田の十二所其外もある處此折橋元
東田村の國之享保のころ入込て家四軒ある今に氣人二戸ある

四軒

四軒村は本四戸ありしより石をいじ東に大谷地ありてり
源くぬきとて田地ありきとて西地といふ

三村

享保日記に家負三軒人三戸ある居りて村名と見えしなり
いふ所の川筋の跡に石河原一のときやどいぬおな川筋に

石持

郡是記小家負九軒ありて今に家さふなり石持といふ地名也

とていふやうに石で醍醐茶といふ草砂石の能く付てて石持
石のり又南部の田舎部石持村あり石神あり此石津輕の保目月存
舍利母の石の如く小石を度うさうなり石持奥羽といふ處を村の石あり此
羽の山本郡向能代に在るまじは是を神齋してあり此處もさる石を
あふりしより小石多うて田畠のさうなりといふ石をやゆある

櫻本林

櫻本林一帯ありて別村の極森ありてこより上極森と唱へては枝郷の極
よりとて下極森とてこより村の人よりいふより中津山王といふ村の水上一
油川の水に林あり多しむより極多しむとて郡是記に家負三軒

桶眼

郡是記小豊眼あり今桶眼と書りトヨツキ桶カケ械キマキ桶カケとて桶といふ

其樋有^{トコ}知^{ワキ}入^ハ樋^ハ沼^ノの谷^ノを^ヲあ^ケけ^ル

野關とハまゝ野小関令吉の存セキヤり六町ムツチ此ココよりして大田井小水オホノヰと
堰サキ棟ツグミの事コトをいへり関セキてハ文字モリ少セキ作ニ一の関新関ニヒセキをスミテ清音スミテとて此
是の端芽ハナユ小家コケ四戸ヨウありふといふ之四屋ヨウニ屋ヤニ屋ヤをいふ久保田
と姓セイとて此小多コタと名ナ之東ハ上極カミキ林ハヤシ別村ワケムラ西ハ宮田ミヤタ所屬ソコの南ハ大塚
所屬ソコの北ハ田村タムラ別村ワケムラ一イチ郷サトニ小松田作コマツタとて田家あり
四屋ヨウ草創クサノハナ家ケも之此ハ松田作左門マサカドと本ホ由利部ユリベ玉前タマサキとふ此
の小松七左門コマツシサカドの家イヘも家苗イヘナと云イハいて小松田作コマツタとていひて諸モロ
路ミチ能スベテいふバ近チカき小田作コダサとてあるとて姓セイと少松田コマツタとて
名ナと作サとてあるとてつぎに今ハ小松田作コマツタとてふと松マツとて

信田家歴代

上祖 須田酒造三藤 正一ハ小野寺家、浪浪人となりけり。系
圖家の古記 禄年火災^{ヤケ}て、何れも跡ハ家傳つばと、其以上祖正一

藤巻

新田開全記小所別村の内藤巻より不意に造山村の庄兵衛が
三男仕入して田畑を開き地形を拜領し則ち引移り依々木
与四郎と号し百姓の富栄つてぞきける則ち清六是こ
其外五軒斗の家数なり藤巻村ハハ之根阿氣村と
むり大森の地形續きあり西馬音田川を橋で掛て町家あり
又内所ありて今木店と云はれむりの虎の口の門立ナ一本戸
二々不大慈寺と云野寺跡立郎の菩提所之大慈寺谷地と
則ち其寺之落城して其後河一助の城大川と判し小ね
いける重福寺下より中嶋だん河原に居るも田地小
むけ其源あり今小強ふ派とて人々ぬるなり

大森と造山村は漸引移り田は中へ家作して八百石
餘の處を開き依々竹^將監様より安堵の地形と下
さき依々木治と号し今この町田平治是こをいふ
と大森も小村あり今開き起り少許は法方より人集り家
數も多しお成り市場を願ひ上月ふ九日の市日と免
され二百軒斗のあり今人の多し和繁昌の在る下深
井ハ三河井向の中流ありて是れ石川五郎と云住進あり開
きして田地ハ成りむり河ありけり地形續きありやふ上溝
の地形ありて百四十五拾石も田地開け廿軒斗の村あり繁
昌と云元文の頃川ねふて堰^で欠落細ありて業ありと云
おのひふ法方より今ハ強助と人止り居て漢^{スナドリ}と云

水田字地

大甲河

高津林

あぐや 高持 向田 一園

館合

小山田

江原嶋

高口 紫田尻

柳原二

一村纏

保家員二百八十戸 人数千八十人 馬負百三十疋

阿氣田の落穂

野堰四屋村の菅原兵助、家小堅二寸六寸横一寸二分の紺紙小
 天照皇大神八幡大菩薩春日大明神三柱神託宣共金返ていて
 它辛酉、花押あり、它辛酉、幸隆の御名、弟もあや其風甚似る
 書画一覽、小幸隆、愛宕山下坊書法二條流より出、やうとく、る

甲 鑑八幡宮 町観世音寺
 乙 油川北ミ流ヲモノ川ミ入ル
 丙 此道阿瓦ノ田村ミ通ル
 丁 八幡宮別當賣正院
 戊 善明院の行者擬の大樹



甲 赤沼由来古今著聞集、
見えず、本行ハ陸奥にあやまり
書ハ、石所古派奥羽の
あゝいり、多し
此力急、ハ田村のくさ
つばら、やれハこふ、り、
乙 大蕨寺、今地村む、
大森の大蕨寺、沙地より、
丙 角田川、江錫の街道ニ
所風、田村、此處で
治後、



溥井村

薄井山本郡小同名あり姓も白井ありまゝ字はゆきとせられ
 い信濃國小^{ホス}白^{ホス}氷あり此邑名薄井とて近き世の事あり古^{モト}
 きより白井とて書^{アカ}つゝぬ此枝郷の舟沼といふ^{フル}古^{ナニ}田^{アト}柵^{アト}の^{アト}
 ありつは世ふいつまの城主の位^スりといふ^ハあふ^ハ河^ハを^ハ其^ハ地^ハて白
 井殿の^ハ河^ハといひ傳へる^ハあ^ハの^ハ田^ハ地^ハの^ハ字^ハを^ハ館^ハ薄井と今
 も^ハ呼^ハぶ^ハま^ハの^ハ沼^ハの^ハ田^ハを^ハ白^ハ一^ハ堀^ハと^ハる^ハあ^ハふ^ハい^ハ
 そと^ハい^ハり^ハ近^ハき^ハ世^ハの^ハ事^ハふ^ハて^ハき^ハあ^ハの^ハ地^ハ方^ハを^ハあ^ハり^ハた^ハ
 此^ハ里^ハ長^ハあ^ハて^ハ太^ハ郎^ハた^ハエ^ハ門^ハといふ^ハ家^ハあり^ハ代^ハに^ハ一^ハ屋^ハあ^ハて^ハ端^ハ
 位^ハ一^ハ氏^ハ家^ハあり^ハとい^ハふ^ハま^ハの^ハ白^ハ井^ハ氏^ハとい^ハふ^ハあ^ハり^ハて^ハあ^ハこ
 ろ^ハい^ハは^ハ依^ハる^ハ木^ハ氏^ハとい^ハふ^ハ家^ハは^ハ古^ハ記^ハ福^ハま^ハ家^ハ諸^ハあり^ハの^ハ傳^ハへ^ハる^ハま^ハの^ハ家^ハ

東山寺ハこゝろやまゝ先従師年貝とありむゝハ
 捨地とつ小偶で成てむむ田の廣狹を量れりとて先従
 の真しといふ事なりまゝ二人よりあつた女とさして
 ちひき谷見のりてあつた古歌ふこゝろがさういふハねりて
 かくとありわろゆゑやわいとおろふ此あつて借屋住
 けりてとるじや栖居をいふそのおごりいふとあつた
 福少屋田屋のふくひふこりわいねやいふ省法こ
 今ふ田畠^{タビ}字々七曲海道脈さいの神小出境
 苗代下 東川崎 狐塚 大塚堂尻 大見内
 川崎 嶋の越 田中 河登り 上川崎
 中村 及り川 明神堀の上 館薄井 長願

舟沼 中嶋 沉み橋 鴨川 九沼 西走り 石田
 堤下 上河原 下河原 白井野 大堰端
 清水川端 一本柳 鳥屋場 大川端 大中嶋
 西頭川 虎橋 長前 河原田 西頭 寺屋
 敷 福中嶋 といハ天和三年癸亥五月廿五日平均師等ノ
 田帳に記すところを中ノ西頭川にありハ「白井川とい
 一流りいふ事屋敷といふ沼館村の東泉寺の在り地とい
 む」その寺ありとて「小田井村の氏家」東泉禪寺の檀越
 三薄井御小^南上^北河井^北下^北河井ありとて中ノ田中後村西小路中
 西後小路内村影塚ありとてありとて書小面影塚
 小地ふ古木の極ありとて出羽秋田の山中にありとて影塚

九月九日、菊祭りの日、齋夜イミヤ、こゝろ不賑ニギ、別當寶壽院也

両頭権現社此御神と近き世にいまりし神をといれ
ゆゑに記さるるやと云ふ新田開元記といふ田帳めける書
小倉井おの河原も次別小倉井にてありしが柳生いふところ
畑ありて是れ又梅津半島渡りして開元にて久保田米
町加塩古麻塩といふ者のは入して鹽が関助成就難
く此ありててふ事ありといふ是れありて是れありていふもの
細い飯の夕暮あり原の影動きけきこを何のふり怒るき見れ
ハ其丈ハタハタ世尋あまの両頭の大蛇といふより肝と消し昔もあま
こちにて逃れりといふ病起ぬまきさああ中き事をも多
く村氏に怖れけふ上の塘より水より夜に光りていふ
あまのいふ世に銭慄持ふかけ事あつたといふ一魍魎の

身のおねむとらけに人をも多しありといふ人といふこと
いふが神も崇むるは佐藤いふと堰塘筋の上新田開元
女祠を権り小堂にて建て神主神子とてふびり祭りけきハこの
神子小神託ありてはばいふて云我をまといふと云ふ
こふ教自年の後其徳とてあまのふかといふき祭らきて
其志とも我よりけり今ハ天上ふたて龍より力に變化と
永田畠の守護神といふと高聲いふはつて神子ハふた
は中にてあまの忙然としてまう人ふと云ふと云ふ
地ふ伏して拜みまうたて後あまのいふと云ふと云ふ
こふ人とも来たりて村にハありぬ其後神祠を遷すといふ
むろい雲海とて真言宗の僧の住居也ハ杉板といふ其地ハ

二間四間の社を建て西頭権現とありのまゝ後神と云ふ神社に雲海
一本又ハ僧侶が没せしがまゐりし此源正坊と別當とあり其の西方小
拾間ノ處で無汶のやま小鈴して其後風狂繁榮しけり今も
そこを清喜山授寶寺西頭大権現と云ふなりと云ふ此西社ハ
神舞の神子没古より一頭ありし其形行て久ぬこゝハ信
濃國村上ノ住伊藤太市長清の末孫小野政芳曰事ハ丹波小
草木住中河右京金成ノ末孫草木氏ノ息女念願一致成願主
友明友信心禱助此度如古末市獅子壹頭新造而奉納之
右寺趣者天下泰平國土安全五穀成熟萬民豐樂村郷
繁榮諸難遠離吉祥不退願主家運長久子孫永保障
早退散福祐自在心中如意圓滿之故也仍而如件云々

也又云々考小獅子舞ハおろろの風俗也陣氏樂書ハ唐大
平樂亦謂之五方獅子舞也云々元史ハ伶人蒙宋毛純作獅子舞
以迎駕と云々西涼伎も回ども伊勢國ハ諸村小獅子頭あり
て外宮の通ふハ毎年毎小獅子舞の神事ありて外ハ年々延
これと舞事ありこゝハ神前師子拍犬と事起りて軍人
の歌聲を慕ふ事ありこゝハおろろの獅子舞といふ事あり
べし是薩摩の國人始りて云々くおろろささるる薩摩の
くも熊野といふハ此の事ありて其の頃ハ漢國ハ獅子舞
てまゐりて云々おろろハ獅子曲と云々云々おろろハ云々
何れも云々おろろハ此天王西頭西社ハ
おろろ獅子ハ神神子一頭ハ高師大師の市画の傾利伽羅不動明王也

獅子の肩間小造^{ハシラミ} 大小奉納大師の画^{タチ}とて横刀ハ
慶安の頃の丹波國中河右京久此出羽國小湊^{ハナト}派人より来ける
と記持する墨寶といふ當國の太主 佐竹右京大夫義峯公の御
代享保六年癸丑曆八月吉辰別當玄性院快剌代 願主小野
政芳同女方御獅子建立取立印升喜助御獅子作者矢野
又ち奥金物細工壹色銀治圖書同一色清右衛門御幕より織
り長門女房作者奥女房 和歌奥女房 林右衛門女房 とい
ふ人々あり

寶壽院世代僧名

元祖成就院雲海法印天正四年丙子八月入寂 二世成就院
省威慶長十九年甲寅十一月化 三世成就院省長元和九年

癸亥三月化 四世明王院省尊寛永二十年癸未三月化 五世成就院
省盛寛文十二年壬子五月化 六世源正院省貞元禄十三年庚
辰九月化 七世玄性院省函享保十三年戊申九月化 八世實
相院施省同年十月化 九世源性院快覺寛延元年戊辰
十月化 十世實相院省光明和二年乙酉九月化 十一世實相
院明元安永二年癸亥五月化 十二世寶壽院省照享和十
二年乙亥五月化 十三世當院現住寶壽院省法之 此下白
井、御西頭、神事、八卯の花祭りて四月八日こゝろ賑^{ニギハハ}り西頭
権現の神田より一臺石の稲田と梅津家より寄附らるる
大見内村 神明宮 祭日六月十六日 別當寶壽院
舟場村 田神社 別當寶壽院

臼井の落葉

八澤水郷守屋記録の中ニ守屋子孫八歳之時親は死んで湯
金所祈念之儀一切之儀式無之ニ澤ニ可頼祢豆無之臼井之大明
神之神豆ヲ師ニ頼ミ申ス時云々云々云々云々云々云々云々ハ臼井
村の舟屋ノ度々大明神ハ祠官社家ノやありん

大木林内記ハ大木林の城主小郷寺孫五郎康道の落胤云々云々
長男乃リ小郷寺康道落城の後云々云々此臼井ハ避^しきて内^ニ家^ノの^ニ云々在^リ
臼井より家苗と云々臼井懐好といひ八澤木の本根大友氏云々
八澤木山の一鳥居の下云々臼井懐好懐好後久保田臼井省軒
と云々云々云々云々八澤木枕の巻云々云々懐物決の中ハ
記云々云々云々云々云々云々

西頭の社前ハ一葉塚あり其碑ハ一葉教のり海や雲云無ニ
物 其外一叟居士寛政六甲寅年八月廿日方示石小郷云々
此翁ハ多郷喜云々一冊云々云々云々云々云々云々
云々云々云々天明の頃新田開墾記と記^ス此書^ノの^ニ云々新
田開墾^ハ教訓^ハ云々云々云々云々云々云々云々
事と考^ヘ合^ハ云々云々云々云々云々云々云々云々

家数百八十云々
人数八百三人
馬数九拾足

白升村校師舟沼村^甲
 乙天王明神丙大毘角樹



田園風景
 白升村校師舟沼村
 乙天王明神丙大毘角樹
 河原の舟池の村風景

西頭權現社

陌々々々

家の前々碑あり

一系数れりあや

元々々々々々

廿外一里居士

寛政六甲寅年

八月四日とあり

方示石に



甲 薄井邑
乙 下々岡村西九沼



源九郎判官義經公書翰

薄井村醫矢野元龜家藏

介様
為成
後
可
中
道
公

源九郎判官義經公書翰

福山
道場

やまのしづ

小出村

里長吉之助

此村本沼館より割れ^{アカ}る邑^モにさるやを以て小出の名あり東
ハ宮田村西北に薄井村^{ハラマ}小宮^{ハラマ}あり小村に寒泉^{シツツ}ありそを
薄井ノ枝郷新城村の清水^{ハラマ}より追々隣りあは朝夕汲み
つる

雷ノ社 夏祭四月九日秋祭八月九日村寶壽院守護社

田地ノ字處

道祖神田^{サヘノカミタ}薄井ニ 堂の前 上小出 下小出より
享保日記小家負九軒あり 今も又九戸あり

家負九戸 人数男女三十五人 馬数四足

小出村

稻田、宇地

寺のきり家 念佛谷地 中谷地 桶がかり

中田 堰合 揚谷地 堰廻（むり）古柵ありいまい
宮田村小籠のほろふ処あり

徳家敷九戸 人数四拾五人 馬負八足といふ

古比良夜那宜

野やち 宮田村 里長 兵四郎

宮田と神田（ミトシロ）とのいふや宮田神田といふ多き名なり

郡邑小宮田村家負六軒 念佛谷地四軒 釜廻四軒

田所四十八軒 中河田十軒と名のこゝ享保年の記録

宮田村今二戸 念佛谷地今四戸 新床今九戸 中河田今家

千手観音社（ニ間）向南 祭日四月十七日 社地小井あり

古木の大槻 柵木をいふや此社といふ 舊き

社がいて生ひし木々も大なりて幾世経るむ 由来さふ傳へ

中河明神社地三間四方計り 祭日三月九日 享保に近強いて

家十戸ありしと記ある由 此中河田地 新墾のとき 狐出いふバ

此稲荷社と建てせしと 稲田の守護とありしと 寛文年中

建三
一
中
明神
之
中
より
下
り
し
る
郷
之
今
ハ
社
地
ト
爲
テ
松
澤

福聚庵

無量山福聚庵禪刹之開山世次志とて、旅僧^{ミチモノ}にと住^スう
此庵に住職の僧侶、觀音、稻荷、社僧と可^べし。

いふ田の石どころ

糸田 大西 碓 へばあこー 門向 若狭前へ 沼上へ

籠の内
頭^う無^こ
水鶏谷地
松の下³

雄勝河

水源ハ鍋倉ツマヌマの甜ツマヌマ沼より出て南より北へ流れて幾千所用ゝ可也

家負廿四戸 人負百三人 馬數十匹云々

杜の石

大塚村

里長

九
依
久
衛
郎
門

大塚と大塚をどわしういふまゝ大塚某のひける如き大塚氏
 りいゝ多し享保部を記し大塚村 家欠十軒 下大塚村 改東ノ字加フ 十軒
 念併谷地村 旧 二軒 新所村 旧 十三軒と見えしなり

神社

藥師如來、社二間向南其由来さうめりてき古き社
とのいひ傳ふ大板周圍一本板む立て村中小座此末社正安
觀音、初め々々いづき四月八日いす

稻荷社八天南方小鎮座祭日同上

真山社
祭日前
小町

白山社 一間四面 答日 前小知

八幡宮 アラトコ 新床村の下 ミヤ 庚子年八月十五日

石神明神社 三尺四面 冬吉日

大沼あり 廣サミ十間四方

小沼あり 廣サ十間四方

男鹿田川 水上ハ鍋倉の井 沼寒泉あり ミヅ 富田村

小沼あり 田ノ字

枚ノ下 中ノ坪 上屋 柴田 羊小屋 堂尻

家負四拾戸 白田五戸 金井谷地ミ戸

又五村十五戸

大塚十七戸

人負二百六人 馬數十七疋 ミ

大和村

